

福島敏夫随筆集

「乙戸南雑話「花鳥風月及び星・虹を愛でながら」から

主宰論説 36

地球と月と虹と星座

地球が成立してから、46億年になるという。月も、地球から分離して、今の形になったのも、約44億年前という。また、宇宙が成立してから、約138億年になるという。天文現象としての月の春・夏・秋・冬の四季折々の百景は、多くの人に、いろいろな感慨をもたらすとともに、【荒城の月】、【セレナーデ】、【月光の曲】など、名曲を生む源ともなったようである。また、虹は、雨上がりの夕焼け空にくっきりと映える映像として、幼年・青年期の印象深い思い出として残っていることも多い。最近では、月も、虹も、【富士山】等の山の絶景とのコラボレーションの良きパートナーとして、SNSの映像として流れているようである。最近では、滅多に見られないという【皆既月食と天王星食のコラボレーション】の映像も、天文現象として楽しむこともできた。夜空を彩る星座は、四季の移り変わりがあり、北半球だけでなく、南半球のものもあって、楽しませてもらえるようである。冬では、オリオン座が、主な星座である。昔、つくばの科学万博(EXPO'85)の後にできた万国博覧会記念公園のプラネタリウムで見た、いろいろな星座や、星の輝きも、印象深いものがあった。南十字星等の星や南半球のいろいろな天文現象も、SNSを通じて、映像として流れていて、結構グローバルイズムの通信の恩恵を感じる事もあるようである。

自由俳句：

はるかなる遠い空の二重虹

令和5年2月26日